

小特集：撤退学 Vol. 3

撤退的知性の探究—「撤退学」の確立に向けて

堀 田 新 五 郎

撤退学特集号 Vol. 1 (『地域創造学研究50』)、Vol. 2 (『同52』) に続き、今回は小特集として vol.3 をお届けする。本号に収められた論考は以下2編である。「社会システムからの個人の撤退—『フリーター』の言説史から考える」(梅田直美)、「『大東亜戦争』と『八紘一宇』—近代からの撤退戦としての世界最終戦争論」(林尚之)。

前者は、社会構築主義の立場から撤退学の本源的な問いを探究する。近代システムが様々な側面で歪みをもたらすにもかかわらず、なぜ人々は既存の生のスタイルから撤退できないのか？ これを「フリーター」をめぐる言説史から解き明かし、オルタナティブの現在の可能性を提起するのである。

後者は、歴史学の立場から、「大東亜共栄圏」や「八紘一宇」のデモニーシユな魅力を剔抉する。なぜ人々は、「聖戦」に熱狂したのか？ その理念に、近代とは別の可能性、オルタナティブを見たからである。資本主義・物質文明の歪みを乗り越え、真に人間らしい文化の営みを夢見たのである。よって、我々は考えなければならない。「近代」も否、「近代の超克」も否。ならば、オルタナティブの現在の可能性はどこにあるのか？

なお、本特集には拙論「撤退学宣言Ⅲ(展望編)」も掲載予定であった。しかし、筆者の遅筆により「撤退学宣言Ⅰ～Ⅲ」は別途まとめる形で出版したい。ご寛恕を乞う次第である。

撤退学特集 vol.1～3 によって、我々が企図した撤退学の叙史的スタートは切られたものとする。今後は、史的・理論的探究を深めるとともに、具体的実践を展開する。本年秋から修験の聖地「奥大和」にいくつかの学校を開き、撤退的知性を修する場としたい。「山岳新校」と名付けられたこの営みに、オルタナティブの現在が宿る、はずである。ご興味があれば、奈良県立大学地域創造研究センターHP「撤退学研究ユニット」を参照されたい。

